

茨 城 県 の 人 口

1. 人口の動向

(1) 総人口

本県の人口は、昭和62年中に24,952人増加し、昭和63年1月1日現在で2,776,817人となった。人口増加率は0.91%である。これを前年(増加数21,235人、増加率0.78%)と比べると、数で3,717人上回り、率で0.13ポイントの上昇である。昭和58年から昨年までは、人口の増加が前年を数、率とも下回っていたが、今回は、5年ぶりに数、率とも前年を上回ったのが顕著である。(図—1)

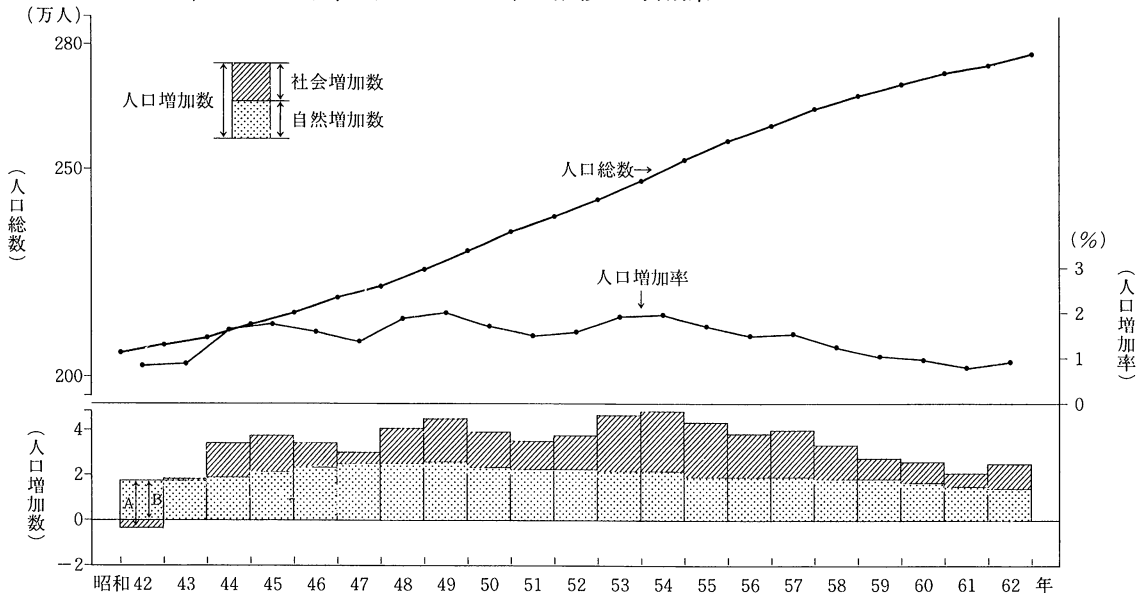
人口増加の内訳は、自然動態で14,503人(増加率0.53%)の増加、社会動態で10,449人(同0.38%)の増加である。これを前年と比べると、自然動態は数で735人、率で0.03ポイントそれぞれ下回っているが、社会動態は数で4,452人上回り、率で0.16ポイント上昇している。

男女別人口の内訳は、昨年中に男12,542人(増加率0.91%)、女12,410人(同0.90%)、それぞれ増加し、昭和63年1月1日現在で、男子1,383,952人、女子1,392,865人となっている。この結果、性比(女子100人に対する男子の割合)は、99.4で、対前年同月比で0.1ポイント高くなり、女子人口と男子人口の差が縮小してきている。

また、10月1日現在での1km²当たりの人口密度は454.5人となり、前年同月比3.9人多くなっている。

昨年11月30日に誕生した「つくば市」について、筑波町を含めて、その状況を見ると、面積は257.71km²で大子町に次いで2番目に広く、人口、世帯数も、それぞれ、134,353人、42,039世帯で、ともに3番目に大きい市となっている。年齢については、生産年齢人口割合は69.5%で5番目に高く、老年人口割合は、9.5%で17番目に低くなっ

図—1 総人口、人口増加数、及び人口増加率の推移 —茨城県—



注) 昭和42年は社会増加数がマイナスのため、Aが自然増加数を、Bが人口増加数を示す。

昭和62年茨城県常住人口調査結果

ている。

次に、昨年の動態についても、活発な動きを示し、社会増加数は2,082人で、県内の市町村で最も多く、自然増加数も1,102人で3番目に多くなっている。率についても、純増加率(2.43%)、自然増加率(0.84%)、社会増加率(1.59%)が、それぞれ、8番目、5番目、7番目に高い数値を示している。

また、性比についても、109.7で、県の99.4を10.3ポイント大きく上回り、県内の市町村で、女子人口に対する男子人口の割合が最も高い市となっている。(表一)

(2) 地域、市町村別人口

市部、郡部別にみた昨年の人口増加は、市部(含

つくば市)12,406人(増加率0.84%)、郡部12,546人(同0.99%)である。

この結果、昭和63年1月1日現在で市部が1,493,407人、郡部が1,283,410人となっている。本県では従来、郡部人口が市部人口より多かったが、11月30日の4町村合併による「つくば市」の誕生により、それが逆転し、昭和63年1月1日現在で、県人口に占める割合が、市部で53.8%、郡部で46.2%となっている。

また、今回の人口増加率と前年の人口増加率の相関関係をみると、今回増加で前年も増加が16市45町村、今回増加で前年減少が5町村、今回減少で前年も減少が4市11町村、今回減少で前年増加が8町村である。増加率が前年より上回ったのが

表一 つくば市の状況

| 項目 | つくば市 | 順位 | 第1位の市町村 | | 茨城県 | 備考 | | |
|-------|------------------------|-------|---------|--------------------------|-------------------------|------------------------|--------------|-----|
| | | | 数 | 値 | | | | |
| 人口 | 134,353人 | 3 | 水戸市 | 232,560人 | 2,776,817人 | 63.1.1現在 | | |
| 年齢別人口 | 年少人口割合 | 21.1% | 42 | 碓崎町 | 27.0% | 21.6% | 〃 | |
| | 生産年齢人口割合 | 69.5% | 5 | 古河市 | 70.5% | 67.6% | 〃 | |
| | 老年人口割合 | 9.5% | 72 | 緒川村 | 20.7% | 10.8% | (少ない方からは17位) | |
| 平均年齢 | 男 | 32.2歳 | 2 | 鹿島町 | 31.8歳 | 35.0歳 | 〃 | |
| | 女 | 34.1歳 | 6 | 鹿島町 | 33.0歳 | 37.0歳 | 〃 | |
| 動態 | 増加数 | 純増加 | 3,184人 | 1 | — | — | 24,952人 | 62年 |
| | | 自然増加 | 1,102人 | 3 | 水戸市 | 1,794人 | 14,503人 | 〃 |
| | | 社会増加 | 2,082人 | 1 | — | — | 10,449人 | 〃 |
| | 増加率 | 純増加 | 2.43% | 8 | 守谷町 | 8.22% | 0.91% | 〃 |
| | | 自然増加 | 0.84% | 5 | 鹿島町 | 1.12% | 0.53% | 〃 |
| | | 社会増加 | 1.59% | 7 | 守谷町 | 7.60% | 0.38% | 〃 |
| 性比 | 109.7 | 1 | — | — | 99.4 | 62.10.1現在 当時の5町村の合算 | | |
| 人口密度 | 518.7人/km ² | 29 | 古河市 | 2,725.9人/km ² | 454.5 | 〃 | | |
| 面積 | 257.71km ² | 2 | 大子町 | 325.07km ² | 6,094.43km ² | 61.10.1 〃 | | |
| 世帯数 | 42,039世帯 | 3 | 水戸市 | 78,986世帯 | 785,304世帯 | 63.1.1現在 | | |

注) 平均年齢は筑波町を除く。

調査から

表一 昭和62年，市町村別人口増加率

(%)

| 人口増減 | 県北地域 | 鹿行地域 | 県南地域 | 県西地域 | 人口増減 |
|----------|--|--|---|--|----------------|
| 62年増加市町村 | 水戸 0.57 勝田 1.47 美野里 0.79 内原 0.70 那珂 1.17 | 旭 0.30 銚田 0.20 大洋 1.02 波崎 0.34 潮来 0.53 | 石岡 0.24 千代田 0.87 江戸崎 0.93 谷和原 0.12 荃崎 2.37 出島 0.07 玉里 2.02 | 結城 0.39 石下 0.47 水海道 0.08 五霞 0.20 岩井 0.37 明野 0.03 千代川 0.28 | 市町村を 下回る |
| | 常陸太田 0.97 常北 1.10 高萩 1.32 友部 2.01 北茨城 0.25 東海 1.03 常澄 1.33 瓜連 4.57 茨城 0.75 十王 1.98 | 大野 1.00 鹿島 1.79 神栖 2.59 玉造 0.95 | 土浦 1.07 桜川 0.16 竜ヶ崎 2.57 八郷 0.52 取手 1.37 新治 0.46 牛久 3.36 伊奈 1.01 つくば 2.94 守谷 8.22 美浦 0.39 藤代 1.28 阿見 2.50 利根 0.96 | 下館 0.59 八千代 0.49 下妻 0.62 総和 1.84 関城 0.52 三和 4.02 真壁 0.37 猿島 0.27 協和 1.13 | |
| | 61年減少 | 小川 0.52 大宮 0.19 金砂郷 0.27 | | 河内 0.15 筑波 0.03 | |
| 62年減少市町村 | 那珂湊△0.38 桂 △0.31 大子△0.61 | 牛堀△0.24 | | | 61年を下 回る市町村 |
| | 日立△0.38 美和△0.72 笠間△0.28 緒川△1.40 大洗△0.15 水府△1.45 七会△1.18 里美△0.66 山方△0.96 | 麻生△0.24 | 日立△0.38 新利根△0.19 東 △0.04 | 古河△0.22 大和△0.25 境 △0.01 | |
| | 61年増加 | 御前山△0.64 岩間△0.17 岩瀬△0.14 | 北浦△0.04 | | |

11市35町村，逆に下回ったのが9市34町村である。今回は，増加率が前年を上回った市町村の方が2市1町村多くなっている。(表一)

増加率の高い市町村は，土浦以南の常磐線沿線及び研究学園都市の市町村に集中する傾向は変わらないが，今回も昨年に続き瓜連町(増加率4.57%)が高く，また，守谷町(同8.22%)については他市町村に比べ，極めて高い数値を示している。(表一)

(3) 年齢別人口

昭和63年1月1日現在の県人口(2,776,817人)を年齢3区分別にみると，年少人口(0~14歳)が599,365人，生産年齢人口(15~64歳)が1,877,540人，老年人口(65歳以上)が299,662人となり，その構成比はそれぞれ，21.6%，67.6%，10.8%である。

年少人口は戦後一貫して県人口に占める割合が低下し，今回も前年より0.7ポイント低下し，数

表一三 人口増加率の高い(低い)市町村

| 順位 | 上位 10 団体 | | 下位 10 団体 | |
|----|----------|-----------|----------|-----------|
| | 市町村名 | 人口増加率 (%) | 市町村名 | 人口増加率 (%) |
| 1 | 守谷町 | 8.22 | 水府村 | △1.45 |
| 2 | 瓜連町 | 4.57 | 緒川村 | △1.40 |
| 3 | 三和町 | 4.02 | 七会村 | △1.18 |
| 4 | 牛久市 | 3.36 | 山方町 | △0.96 |
| 5 | つくば市 | 2.94 | 美和村 | △0.72 |
| 6 | 神栖町 | 2.59 | 里美村 | △0.66 |
| 7 | 竜ヶ崎市 | 2.57 | 御前山村 | △0.64 |
| 8 | 阿見町 | 2.50 | 大子町 | △0.61 |
| 9 | 荃崎町 | 2.37 | 日立市 | △0.38 |
| 10 | 玉里村 | 2.02 | 那珂湊市 | △0.38 |

表一四 年齢3区別構成の高い(低い)主な市町村
(年少人口割合)

| 順位 | 上位 5 団体 | | 下位 5 団体 | |
|----|---------|---------|---------|---------|
| | 市町村名 | 構成比 (%) | 市町村名 | 構成比 (%) |
| 1 | 荃崎町 | 27.0 | 金砂郷村 | 16.4 |
| 2 | 守谷町 | 26.2 | 水府村 | 16.5 |
| 3 | 利根町 | 26.0 | 河内村 | 17.1 |
| 4 | 三和町 | 25.9 | 桂村 | 17.3 |
| 5 | 鹿島町 | 25.8 | 緒川村 | 17.3 |

(生産年齢人口割合)

| 順位 | 上位 5 団体 | | 下位 5 団体 | |
|----|---------|---------|---------|---------|
| | 市町村名 | 構成比 (%) | 市町村名 | 構成比 (%) |
| 1 | つくば市 | 70.5 | 緒川村 | 61.9 |
| 2 | 古河市 | 70.5 | 御前山村 | 62.4 |
| 3 | 取手市 | 69.9 | 里美村 | 62.7 |
| 4 | 土浦市 | 69.8 | 七会村 | 62.8 |
| 5 | 勝田市 | 69.8 | 山方町 | 63.1 |

(老年人口割合)

| 順位 | 上位 5 団体 | | 下位 5 団体 | |
|----|---------|---------|---------|---------|
| | 市町村名 | 構成比 (%) | 市町村名 | 構成比 (%) |
| 1 | 緒川村 | 20.7 | 鹿島町 | 6.5 |
| 2 | 水府村 | 20.0 | 取手市 | 6.9 |
| 3 | 金砂郷村 | 19.8 | 荃崎町 | 7.0 |
| 4 | 山方町 | 19.4 | 神栖町 | 7.1 |
| 5 | 桂村 | 18.9 | 勝田市 | 7.1 |

も13,189人減少し、60万人を割っている。

逆に老年人口は割合、数とも上昇を続けており、今回も前年より0.3ポイント上昇(数で10,399人増加)し、一段と高齢化が進行していることを示している。この結果、平均年齢も男子が35.0歳、女子が37.0歳となり、この1年間で各々0.4歳高くなっている。

また、生産年齢人口の割合はここ数年横ばい状態で推移しているが、今回は前年より0.4ポイント上昇(数で27,771人増加)している。

市町村別にみると、年少人口割合は首都圏のベッドタウン化の性格を持つ町村で高く、県北地域西部地区の町村で低くなっている。生産年齢人口割合では、つくば市(70.5%)、古河市(70.5%)がともに70%を超えて特に高くなっている。老年人口割合は、県北地域西部地区の町村で高齢化の目やすとされる構成比14%をはるかに超えている。特に、緒川村(20.7%)、水府村(20.0%)では5人に1人が65歳以上となっており、高齢化が急速に進行している。(表一4)

(統計課・人口労働グループ)